

花はすお話会が伝えたいこと

50人に1人



何の数字かわかりますか？

厚生労働省の統計によると、2023年に死産した赤ちゃんは1万6000人以上でその割合は約50人に1人、流産は約7人に1人で、大切なお子さまとの別れを経験している人は実はとても多いのです。また、流産や死産で赤ちゃんを亡くした女性の65%に「うつ・不安障害の疑い」があるという結果も出ています。

ペリネイタル・ロスの悲しみは妊娠週数に関係なく個人差があり、公にされないことで孤独を深めるママも少なくありません。

花はすお話会では「ひとりじゃないよ」と伝えるため、対面での語り合いの場を提供しています。話さなくても、聞くだけ居るだけで大丈夫です。

※ペリネイタル・ロスとは
流産、中絶、死産、新生児死などお産をとりまく赤ちゃんの喪失のこと

参加者の感想

供養を長年していたので、心の整理がついていると思っていたのですが、それが違っていたことに気づいてなんだかスッキリしました。

自分の思いを話せる場、同じ立場の方の話を聞ける場はとても大切だと思えました。行ってみようかな？と悩んでいましたが、参加してよかったです。

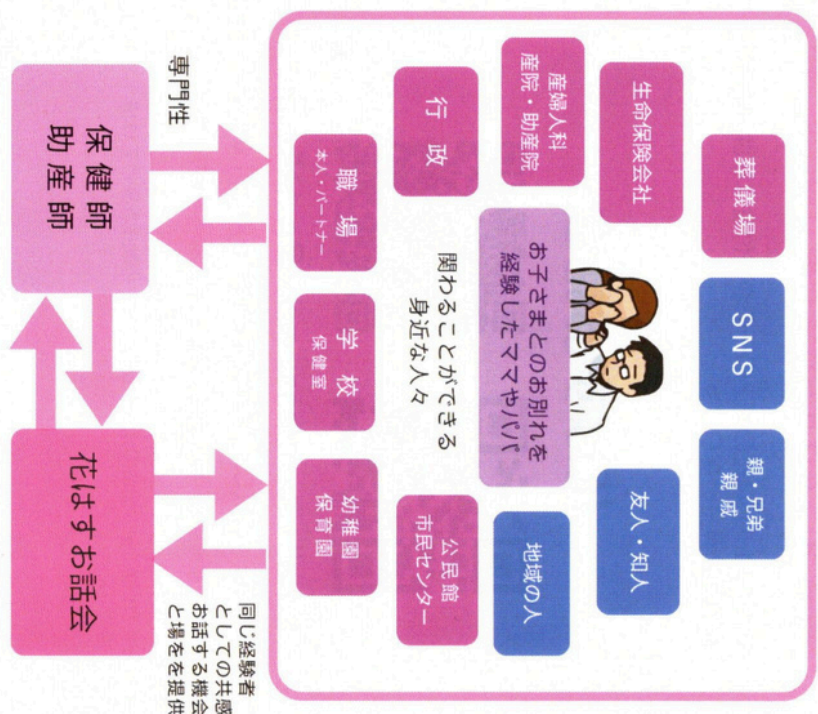
花はすお話会の活動

ペリネイタル・ロスを経験したママやパパが気軽に話せる機会や場を提供しています。お子さま連れや妊娠中の方、県外の方も参加可能です。大人数のお話会に加え、必要に応じて個別対応も行います。また、ハンドブツサージやグリーフケア講座などを開催し、地域にグリーフケアの大切さを伝える活動も行っています。支援に関心のある方の参加も受け付けています。



※グリーフケアとは
死別の悲しみを抱える遺族をサポートすること

▶地域に必要なグリーフケア講座



Baby Loss Awareness Week ～亡くなった赤ちゃんのご家族に 想いを寄せる1週間～とは

赤ちゃんを亡くしたご家族への心のケアや支援の必要性について意識を高め、大切な赤ちゃんに想いを寄せる国際的な啓発週間のことです。毎年10月9日～15日と定められています。

ピンク&ブルーリボンとは

妊娠中や誕生後に赤ちゃんを亡くし深い悲しみの中にご家族を支え心の支援の必要性を社会に啓発する国際シンボルマークです。

※花はすお話会は
ピンク&ブルー
リボン運動に
賛同しています。



福岡県内での連携



福岡県 福岡県内自助グループ
流産・死産等を 天使ママ・パパの
経験された方へ サポート団体活動報告



※福岡県他の地域で活動している自助グループと連携して情報交換を行っています。

花はすお話会について

流産、死産、新生児死などを経験したママたちが集まり、活動しています。こうした経験は今も社会的にタブー視されない、家族にも理解されない、「なかったこと」にされてしまう—そんな辛い思いを抱えるママたちがいいます。

花はすお話会は、行き場のないママたちが、お互いの経験や情報を共有し、喜びや悲しみを素直に分ちあ合える「機会」と「場」を提供することを目的としています。

花はすお話会メンバー（2025年現在）

代表 江藤弥生（グリーフケア士）

夫の赴任先の沖縄県の離島で稽留流産と初期流産を経験。そのときいただいたあたたかい寄り添いがきっかけとなり2023年10月福岡県京都町荻田町にて「花はすお話会」を設立。



中田純子

稽留流産と28週で死産を経験。「なんで私なの…」その気持ちはものすごくわかります。あなたはひとりではありません。一緒にかわいい我が子のお話をしませんか？



眞倉みのり

稽留流産と子宮外妊娠を経験。その後男女の双子を出産するも、生後2日で長男を亡くす。10年の節目に「花はすお話会」と出会い、一員となる。



私たちの活動へ参加しませんか？

- ・花はすお話会の活動を必要な方へ伝えるお話会や講座に参加する
- ・ポストカードやピンバッジなどを購入する



《寄付金振込先》

銀行名：西日本シティ銀行
支店名：荻田支店
種 類：普通預金
口座番号：3150510
振込名：花はすお話会 代表 江藤弥生

※ポストカードなどの売上の一部や寄付金は花はすお話会の活動資金となります

花はすお話会



Email hanahasu.grief@gmail.com
URL <https://hanahasu-grief.com/>

「花はすお話会」は荻田町社会福祉協議会の当事者団体です
このパンフレットはエフコープ生活協同組合より2024年度「エフコープ地域の元気応援助成金」の助成を受けて作成

花はすお話会

妊娠・出産で大切なお子さまとの
お別れを経験したご家族に
悲しみのお話をする
機会と場を提供します

